

江戸名所圖會

和書門			
二〇	一六	一六	三
冊架	函	號	類

内閣文庫			
一七四	八八七	〇	和書
函	二〇	冊	號
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 8870
冊數	20 ( 11 )
函號	174 36



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



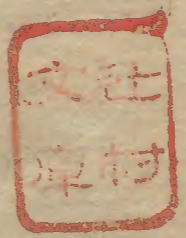
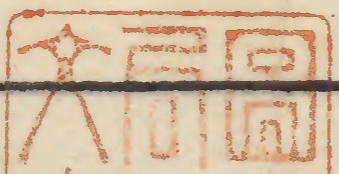
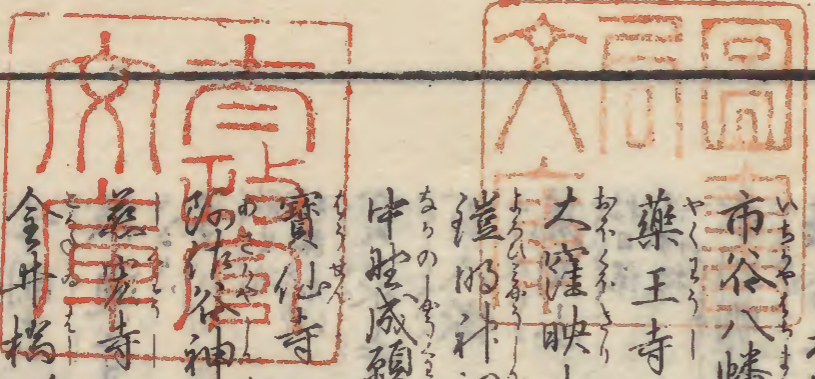
糊などで貼り付けられている部分がめくれぬ箇所あり  
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



江戸名所圖會卷之四

天權之部 目錄

- 市谷八幡宮 いちやにやちまはら
- 藥王寺 やくわうじ
- 大窪映山紅 おほくぼえいざんこう
- 自證院 じじういん
- 淀橋 いづみばし
- 中野長者昌蓮墓 なかのちやうぢやうぢやうれんぼ
- 月桂寺 つきかきじ
- 西遊寺 さいゆうじ
- 角筈十二所権現社 かくはしほにじふにすゝけんげんじや
- 中野 なかの
- 桃園 うづみ
- 大宮八幡宮 おほみやにやちまはら
- 井原池 いではらいけ
- 集土八幡宮 あつちやちまはら
- 正倉院 しやうくらういん
- 赤城神社 あかぎじや
- 神樂坂 かぐらざか
- 圖魔堂 ずまどう
- 寶仙寺 たからせんじ
- 金井橋 かねいばし
- 津之戸神社 つきのとじや
- 茶文八幡宮 ちやぶんちまはら
- 松原寺 まつはらじ
- 安養寺 あんやうじ
- 須坊神社 すぼうじや
- 圓照寺 えんしやうじ
- 中野七塔 なかのしちたつ
- 桃園觀音堂 うづみくわんおんどう
- 幡ヶ谷不動堂 はたがやふどうどう
- 逢坂 あうざか
- 牛込城址 うしごじやうぢ





涉殿山  
 大友松  
 幸國寺  
 感通寺  
 金川  
 寶泉寺  
 百八塚  
 荒園山  
 氷川明神社  
 落合土橋  
 木花岡神社  
 海松寺  
 宗柏寺  
 願満祖師堂  
 三心傳来子子親世音  
 高田八幡宮  
 高田稻荷社  
 高田富士山  
 高田天満宮  
 山吹の里  
 傍法橋  
 右橋  
 奥州橋  
 辰杜稻荷社  
 豊後小侍從大友義延舊館之地  
 宗参寺  
 早稲田神社  
 昆沙門堂  
 宗良親王陣營旧址  
 高田馬場  
 三橋山  
 姿見の橋  
 氷川明神社  
 宿坂岡舊跡  
 泰雲寺  
 子手院  
 赤城の神舊地  
 誓閑寺  
 和田戸山  
 高田七面堂  
 南花院  
 七曲坂  
 金榮院  
 一枚岩

落合堂  
 金剛寺  
 大洗堰  
 駒留橋  
 関八幡宮  
 大慈寺  
 雑司谷鬼子母神出現所  
 雑司谷鬼子母神堂  
 法明寺  
 大正院  
 八幡文  
 大慈天社  
 牛天神社  
 道祖神祠  
 新隠庵  
 小村季吟翁別荘地  
 大塚  
 星谷の井舊地  
 護国寺  
 本浄寺  
 宝城寺  
 小石川  
 法巻川  
 傳通院  
 光圓寺  
 落合堂  
 金剛寺  
 大洗堰  
 駒留橋  
 関八幡宮  
 大慈寺  
 雑司谷鬼子母神出現所  
 雑司谷鬼子母神堂  
 法明寺  
 大正院  
 八幡文  
 大慈天社  
 牛天神社  
 道祖神祠  
 新隠庵  
 小村季吟翁別荘地  
 大塚  
 星谷の井舊地  
 護国寺  
 本浄寺  
 宝城寺  
 小石川  
 法巻川  
 傳通院  
 光圓寺



本木茶師如來

宗慶寺

浄茶園

祥雲寺

五量院

白山神社

菓暗美性寺

療病院

氷川明神社

十羅刹女堂

板橋澤

庚申塚

猫狸塚

十羅刹女堂

木下稻荷祠

板橋系

宗蓮寺

子系家城址

慈母權現宮

清水坂

清水茶師如來

大堂

松月院

一夜塚

病産圓福寺

子系家古城址

次上觀音堂

赤塚明神祠

十羅刹女宮

三寶寺

二寶寺池

愛宕權現宮

觀音堂

氷川明神祠

練馬城址

照日塚

石井井城址

石井井明神祠

練馬城址

立地舊跡

藤折里

宗墨高

内川

十玉院

稻波田彈正回館地

西蔭院

阿蘇明神祠

野火留

平林禪寺

八圓山

久米川

狭山の池

安松長源寺

飽間齋友墓碑

將軍塚

曼荼羅淵

水原寺

山に觀音堂

小野天神社

山に星

小豆差系

箱の池

新栄井

新堀玄蕃居住地

勝樂寺

所澤

新光寺

東近寺

戸田川渡

羽黒權現堂

燒米坂

藥王寺

新曾妙顯寺

治川義行居城旧址

調神社

子安清水

宮本敏川の神社

東光寺

大兵氷川神社

源田出羽守資忠城跡同墓

黒塚



市谷八幡宮

市谷御門の外より別當ハ東圓寺と号す南紀

高野山

金剛峯寺ハ屬して古義の真言宗なり

本社祭神

應神天皇 軀中ノ神跡あり相傳ふ多田満仲崇信あり一靈

佛

本地ハ東ハ神功皇后 應神天皇ノ西ハ妃大神 空藏菩薩ニ三

神鎮座

稻荷祠 稻荷と稱す其由来由信よりたす故ふころり略せり此木

神

の産子ハ毎歳四月元三の間茶と飲む眼疾と患ふる者ハ一七日又三七日と日教と

社記

曰文明年間太田持資江戶城擁護のため小相州鶴岡の八幡

大神を勧請

山林及び神田等若干と附して東圓寺を創建

を

山号と稱嶺といハ此地より稻荷の社あり地主の神と又自親松推考

樹を栽

社木と社壇城廓ともハ繁榮あらんを祝す土谷道灌

枝葉

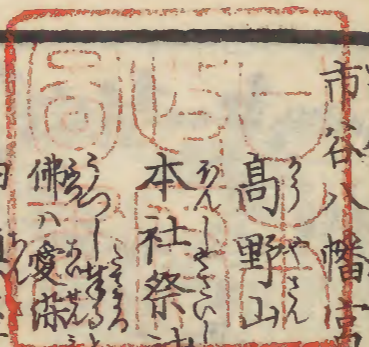
繁茂と平後天正年間兵燹ノ罹りて破壊せしと慶長年間

別當

源空以僧都此願基と憤激一己餘鉢を傾け百歩許の

遺址

と點檢一州と結ひ誓と一木を伐り扉と一宇を再





市谷八幡宮



或人の説ふ市谷昔八市の幸地あり  
 市買ふ作りくるとの然れとも詳あり  
 按不鎌倉鶴岡八幡宮蔵まるとの延文  
 三年十二月廿日の基氏の古燈文小鶴岡  
 八幡の雜掌任阿申武藏國金曾木  
 彦三郎市谷四郎等のの江戸筑路守  
 押領と止む正和元年八月十一日の  
 寄進状に任せ社家子付て

以込せし  
 云々燈と  
 社地不蔵  
 揚弓の類ひ  
 あり又社  
 前の大路ハ  
 四谷への  
 往來あり  
 行人  
 給傳



宮一神殿は擬儀一絶々を継廢々を興也然もと  
諸を古の社觀は比まれハのまゝ十之一を得るありあつて唯幣  
帛を捧げ染具を盛宝祚の萬々を泰山の安に置武運の  
綿々を林石の長に護兼て又萬姓の豊樂を祈る也  
耳なり

大神君 關東河入城の時當社の来由を問ひしに  
河三代 大將軍家社領を附せしを朱璽を賜ふ然も元祿十  
五年壬午の夏 賢母後一位桂昌院殿當社の事蹟を聞しむれ  
神輿の足らざるを憾と思ひせしを黄金教杖を寄捨して新  
是を奉造なりしを神輿全備なるありしより神威昭々と  
して著く社殿の經營も又つり輪煥と宿昔の社觀は倍  
なり 南向亭茶話云く市谷八幡宮の旧地ハ市谷河門の内今大番所あり  
河今の地は迂り角山本氏の邸の隅に樹の大樹あり地これあり寛永年  
此地を神輿と稱せしなり

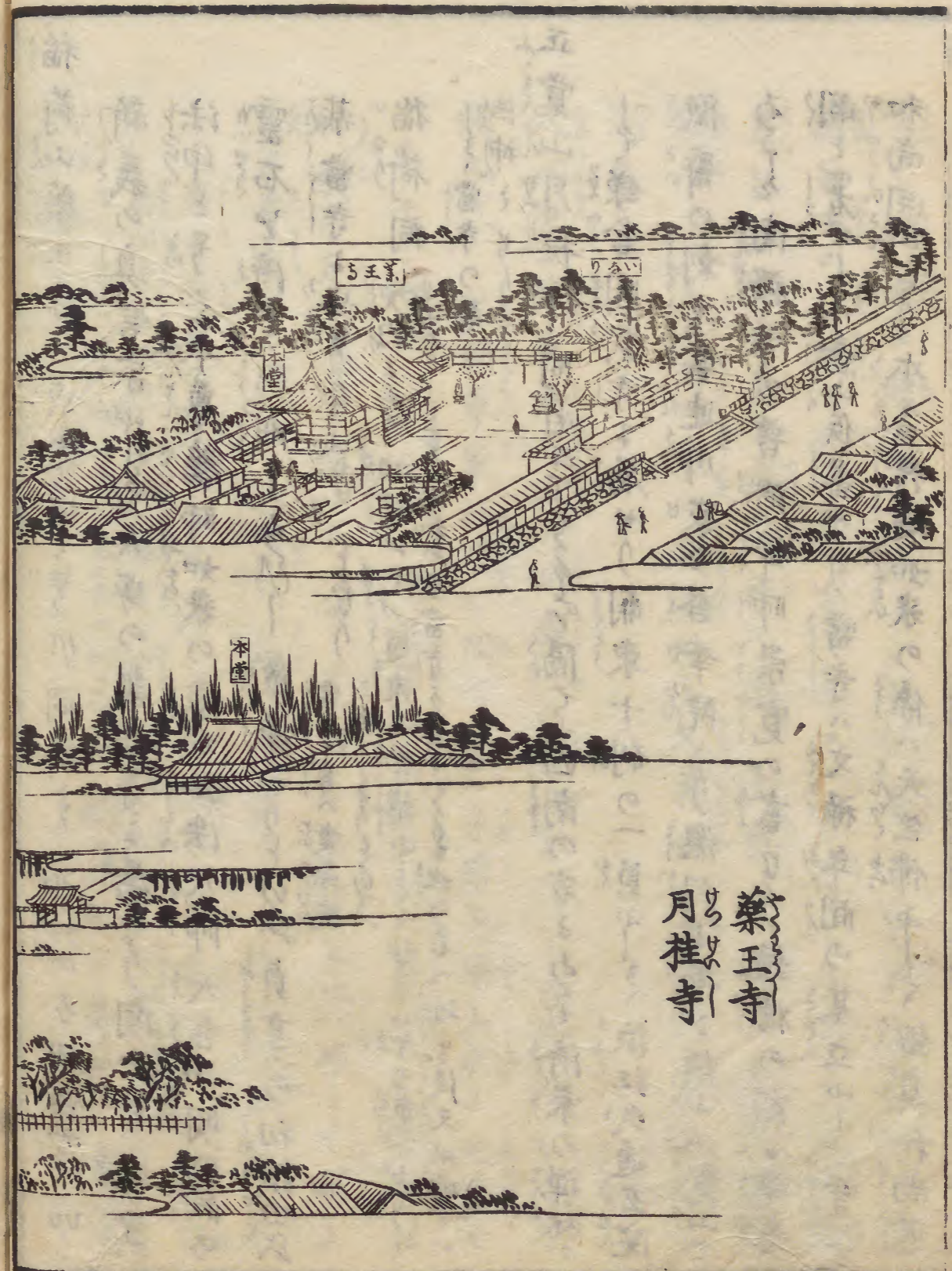
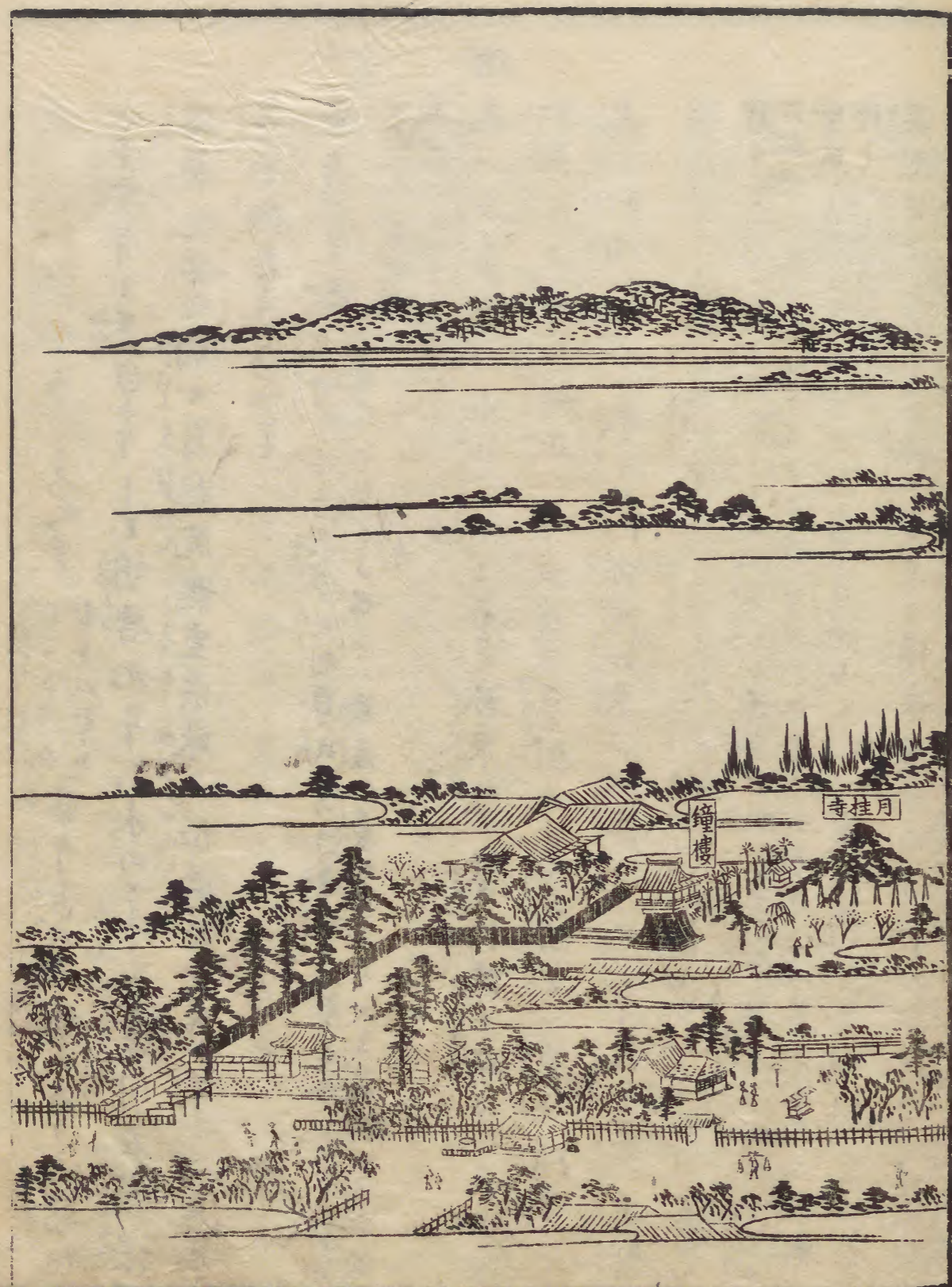
稻荷山藥王寺 東光院と号し同所より西北の方河田窪に

新義の真言宗より大塚の護國寺に属せり用山と澄眞  
法印と号く本尊藥師如来の像ハ弘法天師天台四明の洞の  
靈石を得て彫刻しあり靈像あり貞享の初須田氏  
某當寺に安置なり 當寺昔ハ變赤院  
稻荷祠 境内にあり相傳へ大田道権の勸請なり此の市谷河門の  
邊にありとあり元和の頃當寺より三丁より北の方へ迂り後又此地へ

正覺山月桂寺 同所三丁より隔て西南の方より濟家の禪林に

一鎌倉圓覺寺に属せり關東十刹の一員なり淡江氏通玄院  
徹齋の創立喜連川家の香華院より徳門に掲る額ハ正覺山と  
あり南禪寺の普濟禪師崇寛の書なり鐘樓の額ハ華應  
閣と署せりハ香山侯書あり當寺ハ文祿年間の基立ありて雪山  
和尚開山とあり本尊釋迦如来の像ハ天竺佛中より鑑真和尚携





藥王寺  
月桂寺



来りての靈佛ありと云ふ  
山平安寺と号けり  
源頼純君の嫡女月桂院龍室宗珠大禪定尼と葬せり  
寺号と改むると云ふ

安産寶珠  
當寺は安産將軍足利尊氏公の御臺所を所持ありしと云ふ  
此靈珠と拜する婦女の難産の憂なりと云ふ大に崇敬せり始當

市谷谷町はわろと林泉院と号けり  
浄土宗中々京師

知恩院は属す天正二年甲戌の草創なり  
岡山と心蓮社深誓上人

貞公和尚と号く本号阿弥陀如来の立像ハ三尺三寸あり  
惠心僧都

彫造わろ京師真如堂の本と云ふ  
同本なりとの云

靈木を得て是と打割りて木理自ら佛髻の形と成り  
相傳は天長年間慈覺

靈威と蒙りて相傳昔岡山上一宇の精舎と開創せんと  
市谷富士見坂其

其地を求めらるる林の下より清泉涌出せり云々

公院館の内又傍は小き洞あり中より一足の白狐頭を蛇く深誓

上人に見え恭禮せり如く依り靈地なりと推知りて此地に主

島田氏某は乞得り其地は梵宇と建せり  
明暦二年丙申四年

稻荷祠  
境内はあり方治元年正月朔日の夜白狐の老翁住居秀誓上人の夢に

上人に見えり白狐ありと直に稻荷明神に勧請せり  
又此地は宇田

八幡宮  
境内はあり雲州の尼子伊豫守經久城内の鎮守は崇徳の故あり

七寶山藥王寺  
同所西南の方より四丁半を隔り黄檗派

の禪林中に山城宇治の萬福寺は属す昔ハ真言宗の古藍あり

中古大に衰廢し後ハ草庵の形なりと云ふ  
元祿の頃凌

雲禪師與復せり  
武田典厩の女の腹に

海音院中判髪し凌黄檗とある紅生し  
同國小諸曹洞宗

の寺院とせんを謀りて寺院を新建せりハ官禁ゆかり





大窪天満宮  
 社壇西へ向ふ  
 西向といひ又  
 東の天神と推  
 せしもの東の  
 奥の境内  
 ありし處あり







大久保七面宮

悉く一寺とある青山の海蔵寺深川の勸祥寺等ありて其の中八箇の庵室と号す  
 一木薬師如来 同境内に安置せられたる地は古くは行基菩薩創建  
 大窪天満宮 大窪にあり此地の鎮守とす祭禮ハ六月廿五日なり別  
 當ハ梅松山大聖院と号して聖護院宮の直末本山派の江戸役所  
 中へ大先達より當社を世よ承の天神或ハ西向の天神とも称せり  
 社壇西に向ふ云々あり相傳ふ安貞年間梅尾明恵上人の勸請やと  
 東と稱する来由ありとす  
 明慶寛運等は是を奉祀せし後又太田道灌神田を寄附す然るに  
 天正年間兵燹おかりて烏有となり頃そ神幹溪間の櫻の枝に  
 移り止りあり其本と瑞現櫻と号く此時青山氏某郷人と共謀りて  
 祠を經營せし聖護院宮道晃法親王東國下向の時大僧都元信  
 とく當社の別當たりもろふ地つゝ寢廟漸備つり四時の祭  
 典綿々として怠りなかりし  
 七面大明神社 同東の隣日蓮宗春時山法善寺に安置す祭禮を



諏訪谷村  
諏訪明神社







大久保の映山紅ハ  
 弥生の末は盛なり  
 長丈餘のりの萩株  
 ありと其紅艶と愛  
 するの紫こふ祥遊を  
 花形微妙とワとも  
 叢り閑く枝莖と蔽ひ  
 うらに満庭紅と灌  
 う如く夕陽映しく  
 錦繡の林成るは  
 此辺の壯観  
 うら



自證院





鏡明神社



圓照寺



鎮護山自證院

同所西の方道より右側あり

寛文三年より此神前より

九月十三日より十九日に至り誦經說法あり尊影八日護上人の  
 作との相傳ふ此七面宮ハ江戸の地ハ七面宮を勸請するの最初ハ  
 一々往古駿州大久保ハ三澤氏某勸請を萬治年間當寺へ移  
 或人云三澤氏ハ小次郎政廣と云後州の人あり後駿河國富士郡大鹿村  
 院法性日弘或ハ云延寶年間甲州身延山より移すと境内櫻樹  
 多くありて弥生の盛をとて一時の奇觀とせ  
 鎮護山自證院 同所西の方道より右側あり  
 号ハ天台宗より東叡山ハ屬せり尾州亞相光友卿の沔簾中  
 千代姫君の沔母堂自證院殿光山曉桂大姊沔善提の沔開創  
 せし精舎なり本名ハ阿弥陀如来閑山と日須上人と号ハ當寺始々  
 日蓮宗より本理山自證寺と唱へし元文年間故ありて天台  
 宗ハ改めらる當寺をせよと寺と字ハ諸堂宇悉く種々此節  
 あり木と集めて造立ししハ衆人よく奇異なりとす因



柏木邑  
右衛門  
櫻



此称あり蜘蛛の井とのり當寺の境内より来由ハ誌キ堪へず  
 小略モ昔ハ山林小櫻多ク由諸書ハ是れも多クハ枯  
 失せ今僅小古本二三株存せるの

紅葉山西迎寺 同異の方ニ町を隔て四谷北寺町あり浄土  
 宗中増上寺ノ属モ往古太田持資の臣伏見勘七といふ人の  
 草創なりといへり旧ハ御城中紅葉山の地ありと天正の後此  
 地ヲ移せりといふ本モ阿弥陀如来関山ハ儀蓮社仁譽上人存公  
 和尚と号セ

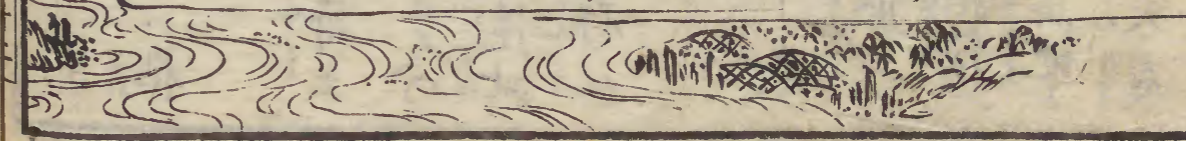
醫光山圓照寺 瑠璃光院と号ハ柏木村より真言宗  
 田端の與樂寺ノ属モ本モ薬師如来の像ハ行基大士の作股士ハ  
 日光月光の二井なり又左右の壇上ハ十二神将の像を安ハ相傳ハ  
 醍醐帝の御宇理源大師の法弟筑波の貞宗僧都此像を此地  
 安置しなるといふ兼平二年壬辰平将門威と東関ノ振入天慶



淀橋の水車



淀橋ハ成子と  
中野との間に  
ワセリ大橋  
ハ橋ありて橋  
あり此方水車  
田橋ハ成子と  
淀川ハ準へり  
淀橋と名  
付て此方  
台命ありし  
あり名と  
とへり大橋  
下と流る  
神田の  
上水  
あり



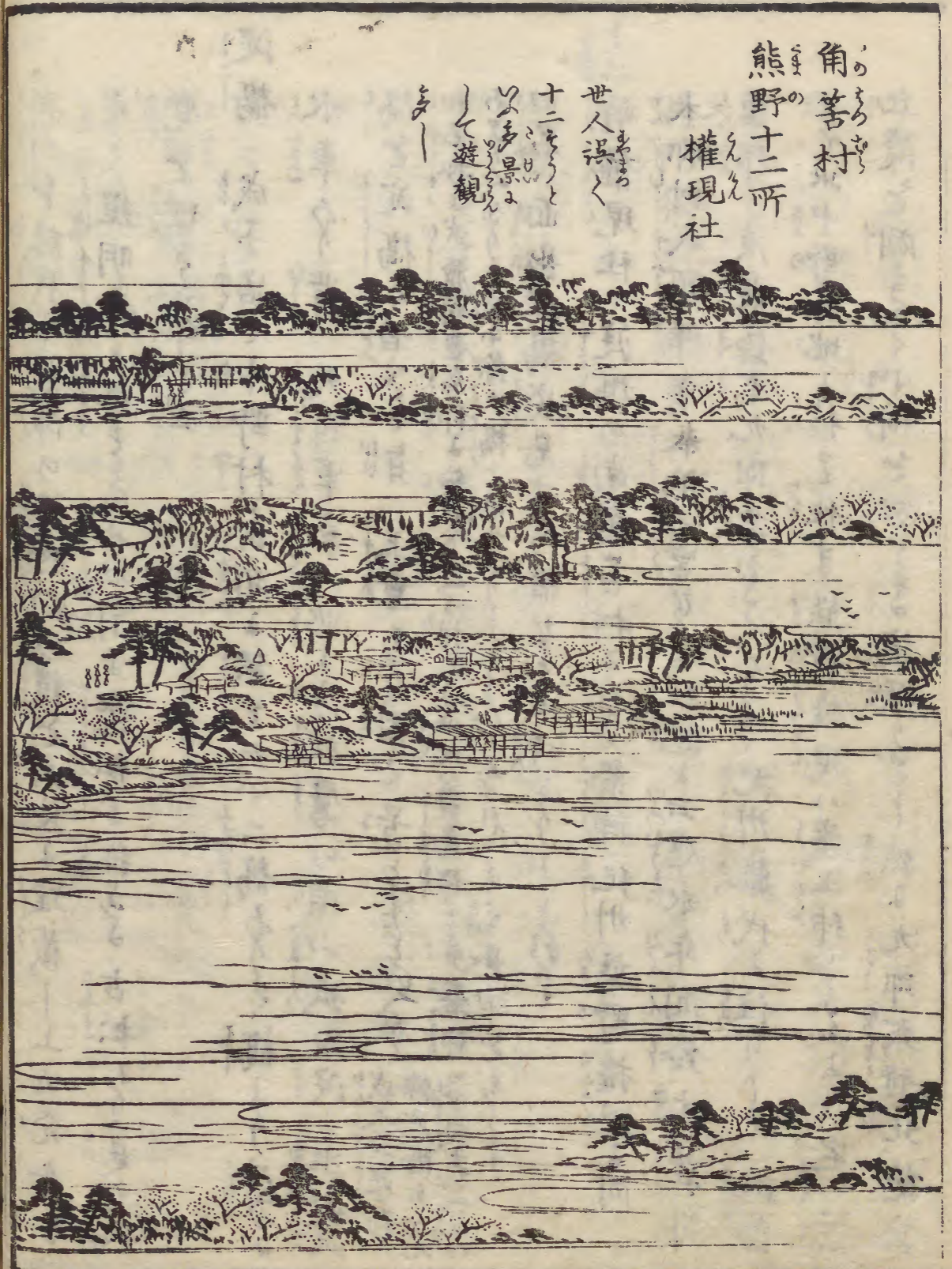








石人



角の  
熊野の  
十二所  
権現社  
世人誤く  
十二所と  
以て遊観  
し  
ま





西の市小銅の所の疲馬を賣く價一貫文を得る。帰路小臨て  
 浅草に至る其得る所の錢の倍を解てる。小悉く大觀錢あり  
 九郎心裏小あつあり。即觀音堂に詣て其錢を宝前に  
 ちり多を空る。一帰る。夫より後。さうさう幸福とぬ  
 其家大に富をかせり。故に應永十年癸亥社を再興。更めて  
 十二所の伊神を勧請し。なり。田園等若干を附て。数世を歴る  
 後荒廢。まほし。神燈光疎。祭奠常。小。猶感應の  
 速ある。と。以て。村民恐怖。遂に享保の頃。官府に訴て。成願寺  
 奉祀の宮とす。ち。あり。己降。神供。嚴重。祭祀。懈る。り  
 な。九月廿一日を祭祀の辰とす。

多寶山成願禪寺 同所上水川を隔て西の方同一川端小臨して  
 本郷村のあり曹洞派の禪刹にして相州田原村香雲寺小屬す  
 當寺八角筭十二所權現宮の別當なり本寺釋迦如來の像、聖徳





成願寺



太子の眞作ありとのみ前の十二所権現の社記に載る所の鈴木九郎  
某本國紀州を以て其妻と共に此中野の地に移り住たりし後  
幸福を得て其家富栄えりされとも宿因あり一人の娘  
俄に死して蛇形を顯はせし春屋禪師  
畜身を解脱し上天を以て得たり  
十二所権現宮の淨手洗池と蛇池と  
号くとも時春屋禪師の眷  
せし法服今後當寺に傳へられし父母頗る菩提心を發し法喜  
受戒して自ら正蓮と改む又居宅を壊ちて精舎と爲し女の  
法名正觀の文字を以て其寺号とす  
女の法名を眞寔正觀禪女と  
の所領役派は島津又次郎との人の所領の内は中野内正觀寺とのつと号と注し  
たる當寺のつと号と注し  
寺と改む諸堂塔より三層の塔を造立し生涯優婆塞を勤行し  
遂に永享十二年庚申の歲終とて  
三層塔は今中野の通り道  
境内の塔屋敷と稱する地あるは春日山の中當寺  
其後文明八年丙申より  
春屋禪師より四世川庵宗鼎和尚當寺に董席しく傳燈哉

挑く法嗣今は連綿なり徳門に掲げたる多寶山の額本堂に掲ぐる

成願禪寺の四字ハ雲峯和尚の筆なり

中野長者正蓮墳墓 同境内叢林の中あり厩基鈴木九郎の墓あり其石

武州多摩郡中野の中正觀寺といふ某師の棟札は朝日長者昌蓮と記し

中野 渡橋の西とて豊島郡と多摩郡の郡界を以て此地ハ多摩郡小

属す武蔵野の中央ありとて号くと云はれ北条家の所領役

帳は太田新六郎知行の中は中野内阿佐ヶ谷又中野大場源七郎をたの地と

北國記行 中野の地は平重俊とて中野の地は平重俊とて中野の地は平重俊とて

中野七塔 今其所在を云く或人云三所を云くはあれはあり  
とて里諺は中野長者昌蓮佛小供養の爲高田より大窪迄此  
間ハ百八員の塚を築くと云はれ  
此の高田百八塚の条下とて七塔と



中野の塔



〴〵其類のものあり又中野の通り右側叢林の中に  
 三層の塔あり七塔の一なり傳へ云中野長者鈴木九郎正蓮  
 建ふゆや昔成願寺の境ありと後世今の地に移り  
 今大日如来と名をとり昔の地をハ釋迦如来あり 中は長者鈴木氏夫  
 婦の肖像と稱しそのを安せり後世成願寺の地とす

明王山宝仙寺 無動院と号し寺領あり古義の真言宗にて同

西の方右側あり良辨僧都開基なりと云傳ふ本寺ハ弘法大師  
 等身の像あり願行の作なり中興深山と聖永和尚と号し往古  
 大刹ゆへ此地より二十町を北の方阿佐谷の地あり一  
 足利の代に至り今の地に移すといふされと大永の頃兵燹に罹り  
 佛殿僧坊悉く焦土とあり因る其頃の日記も廢亡たりといふ  
 開創の時世々詳ありを境内普門院ハ不動の靈像と安置し  
 良辨僧都の作とも或ハ願行の作ありといふ





中野の  
寶仙寺

當寺の専修  
交趾歐州  
まきの彫象の  
枯骨あり





馴象之枯骨 享保十三年戊申交趾國より鄭大威ある者廣

南よ産する所の大象北牡二頭と率の來て本邦に貢獻也 林信言の

大泥國より來り北象ハ 同十九日上陸す 同年六月十三日長崎に着せ

同申年九月十一日長崎に於て斃せり 象は二日潭敷 豐十四年己酉三月十三日崎陽と

十六日大坂に至り同二十六日伏見より京花小入同二十八日禁脔に朝

天覽と蒙む 禁脔小入の例をなれは、獸類に

同五月二十五日江戸に迎へあひ同二十七日宮中へ於て上覽あり

平凌中野の象廐を建てる是と飼せられり二十餘年と歴る

寛延の頃斃せり 瑞寺に存せり

壯象七歳 總身灰色中々頭の長さ二尺七寸 頭ハ俯より又顧鼻の

長さ八四尺程 或ハ三尺 同圍一尺五寸 末の方を六寸許り

肉丸あり 針と拾ひ芥子とつまむ水と飲酒と吸ふも又鼻と以て食する

時鼻を以て捲入る一身の力皆悉く鼻あり 起る程ハ二尺四寸圍ハ元の

眼の長さ三寸 或ハ二寸五分 耳の幅八寸餘 或ハ二尺三寸 胴の

長さ七尺四寸同圍一丈背の高さ五尺 或ハ五尺七寸 足の長さ二尺二寸同

圍一尺五寸 或三尺五寸 圍二尺五寸とも 足ハ圓柱の形

羊腸と下 電の如く深き水を汲み 捷 性能人ハ馴れ 尾の長さ

三尺三寸 或ハ二尺七寸 形 牛尾に似たり

北象五歳 總身灰色中々頭の長さ二尺五寸鼻の長さ二尺八寸

胴の長さ五尺斗同圍八尺六寸背の高さ四尺七寸 或ハ四尺 牙の長さ五寸

程あり 其餘ハ壯象小等

飼料 一日の間ハ新菜二百斤 篠の葉百五十斤 青草百斤 芭蕉二株根を省く

饅頭五十 大唐米八升 其内四升程ハ粥ハ焚く 置く是と飼湯水 一度ハあん

殊小俗間角力取草と稱 好んで食す 青草 好んで食す 粉と莖穂とも

飼或ハ藁大根のこも食す 好んで酒と飲と

甘露集 時あれハひとの國あけけののろめ九年ふらうれき 御製

法元皇



情しきものさへかへぬものなれば

同

不味直院集

此園ふらふらとて

同

芳雲集

たふしと民のさへもさへく

同

民をさへたふしと

同

此をさへたふしと

同

公福

通躬

為久

同

実蔭

同

光栄

同

同

同

同

同

同

同

桃園 同所西北の方十町を隔つ享保の頃此辺の田畝悉く桃樹を栽しあひて頃 台命ありて此地と桃園と呼せあひての今も弥生の頃紅白色をまき一時の奇觀なり此地小

大將軍家伊遊獵の時の伊腰掛の地ありて又岡の前を流す小川に架せる橋を石神橋と唱ふ 此の地は石神の三空寺の池

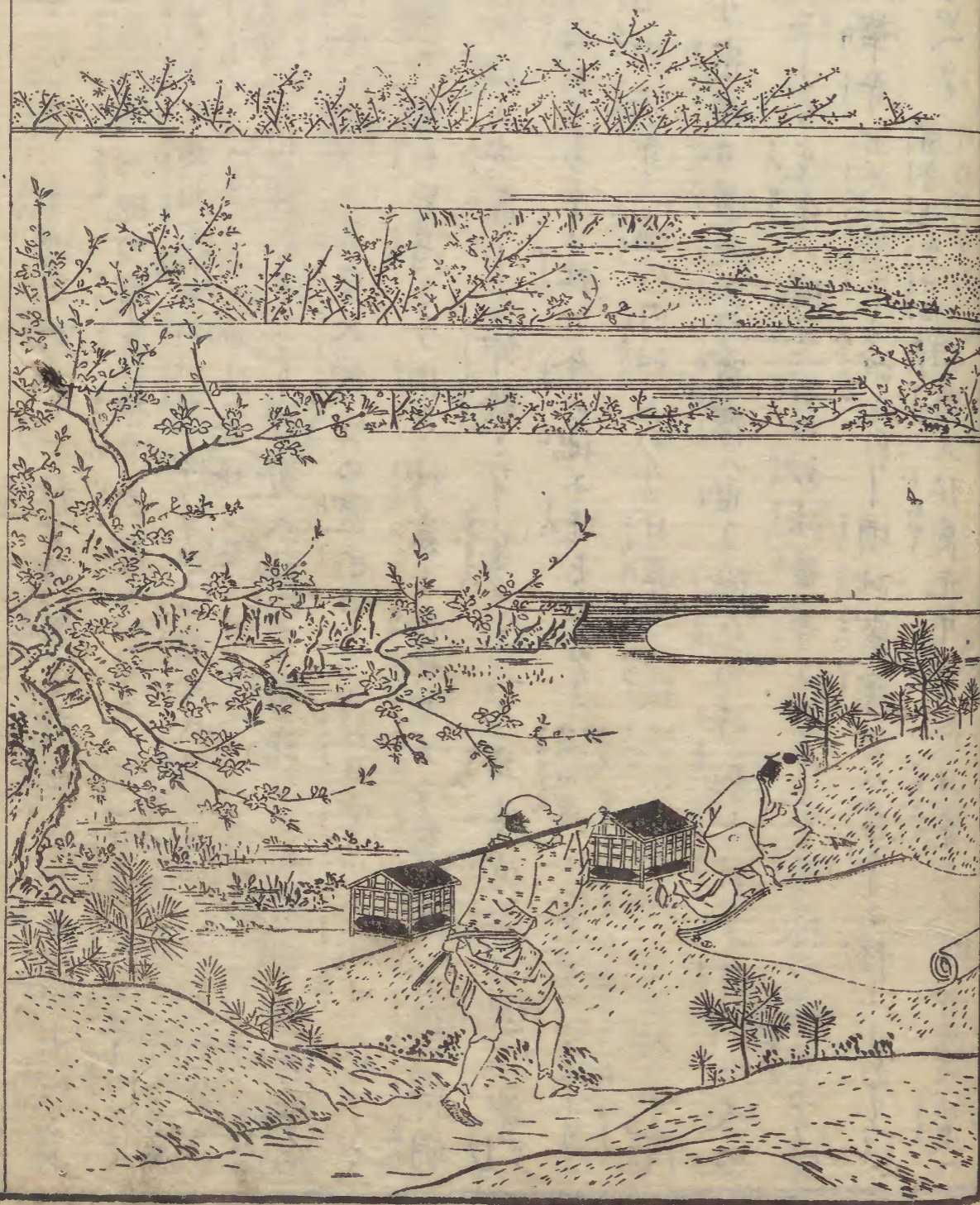
桃園観音堂 土人の桃堂と称せり同所高圓寺村の高圓寺と 禪林に安置せし本尊は聖観音なり 惠心僧都の彫像ありて

阿佐谷神明宮 同西の方阿佐谷にあり中野の通りより右へ入る十

八町計あり 阿佐谷は小田原北条家の所領後帳に中野内阿佐谷とあり 伊勢は相同し神籬は一願の靈石なり毎歳九月十六日を祭祀の辰とて別當は真言宗なり 阿谷山世尊院と号す 中野の宝仙寺は旧地相傳ふ 景行天皇の四十四年日本武尊東夷を征伐しあひて伊勢陣の時この地を休らひあひて 是後土人を尊の武功を



興春多園之桃





慕ひまじりて地を封じ一社を経営し神明宮と勸請す然る不  
建久の頃此地の農民横井兵部とて人此人の遠裔今も此地に住す  
頼義朝臣奥州征伐の時此地にありて横井氏の祖兵部といふ者随兵に加  
りてありて急病に臨みて戰場に趣くありて止り終る農民と多  
由家と云ふ祈願ありて伊勢太神宮へ参詣せんと勢州能保野の  
驛舎小宿す其夜太神宮の靈示ありて翌日宮川の水中に  
一顆の靈石を得て依りて神意に任せ旧里に携へ歸り件の神明  
宮の社を安置し神躰となりて其後抵海とて沙門  
神告ありて社を今の地に移すあり其田地ハ七八所東の方あり  
土人これを元伊勢と稱す  
日圓山妙法寺 堀の内村あり日蓮宗一致派にして頗る盛大の寺院  
たり宗祖日蓮大士の靈像ハ世に除厄の沙影と稱す日朗上人の  
作りて先ハ碑文谷の妙法華寺ありて元祿の頃故ありて  
法華寺と天台宗に改られり頃此靈像をハ當寺に移すありて  
當寺住侶日性 相傳ふ弘長元年辛酉日蓮上人四十伊豆の伊東へ  
配流せし日朗師隨身し其地に至らんとせりと此事協つ

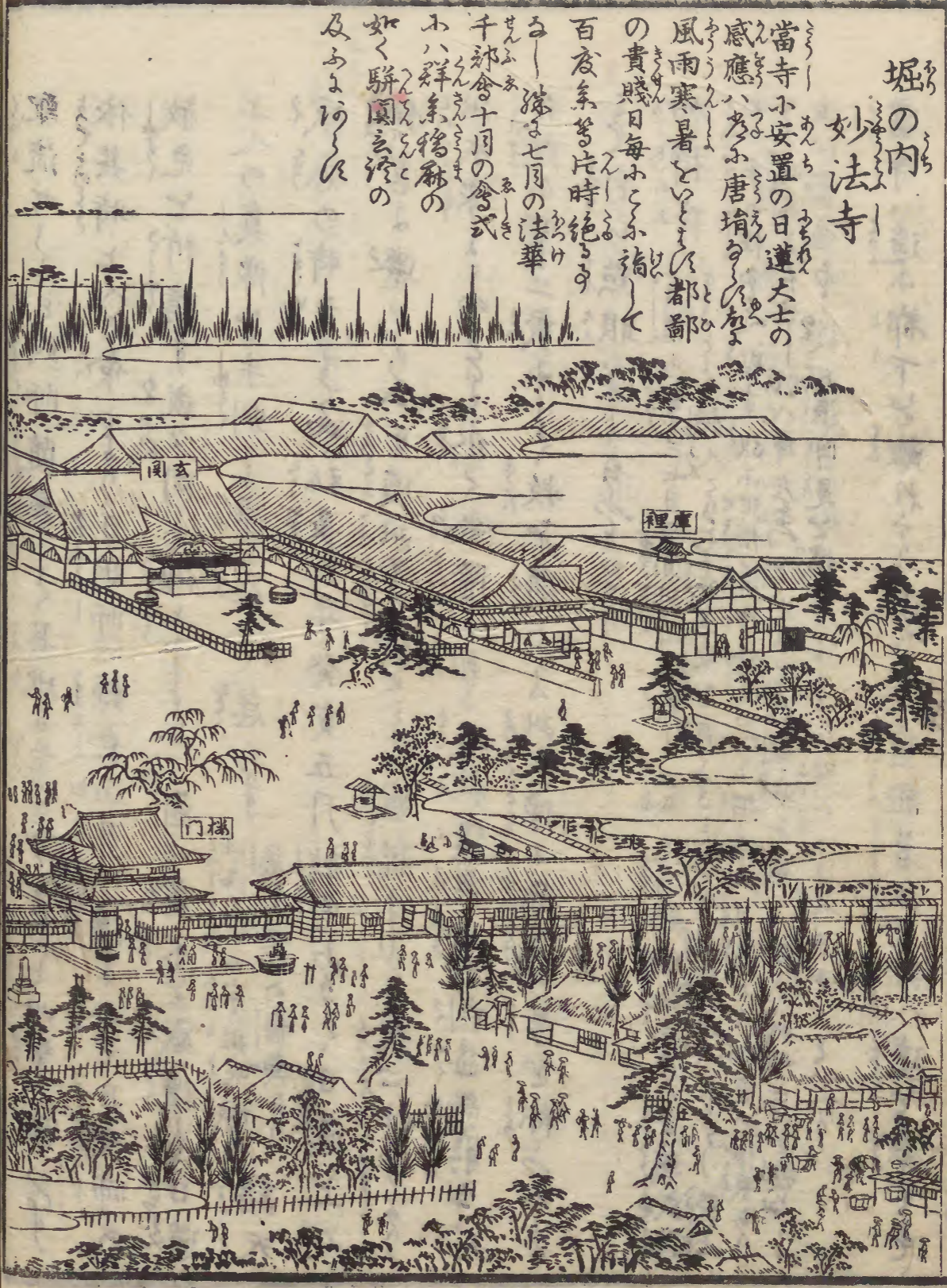
依其時上人の命あり日朗師ハ鎌倉由井の濱に止り日夜師の  
赦免を祈請す或夕同一海上中一箇の靈木と感得し日蓮  
上人の真像を手刺し常小仕へて怠らず此沙影ハ宗祖大師の  
像と造るの権輿あり諸天  
感應の時至りて弘長三年癸亥五月赦免ありて日蓮上人  
鎌倉を還りて頃此像をて感悦まりて我心神今より  
此木像より永く来際まで延救護衆生の利益無窮ある  
我既ハ四十二歳中く救を得りて此木像ハ除厄の号を稱し  
とて自ら點眼なりとあり  
加持符 有信の葦三七日の間此符を對し正念ハ唱題誦經し其病床のありて壁上  
或ハ家の柱を貼す故小世俗張符とて相傳ふ日蓮上人伊豆の伊東あり  
るに靈應あり後浪師是を傳りて已降世に相兼まるとあり  
當寺ハ遙小都下を離れりとて靈驗著故に諸人遠を厭を





堀の内  
妙法寺

當寺小安置の日蓮大士の  
感應ハ老唐増多の  
風雨寒暑といふ都鄙  
の貴賤日毎ふく不  
百夜系昔片時絶  
る一法は七月の法華  
千部舎十月の舎式  
小八群系稻麻の  
如く駢圓玄浄の  
及ふよ河の





歩行と運ひ渴仰す毎年七月法華十部十月十三日淨影供と  
修りて千間群叅指麻の如し

大宮八幡宮 和田村小あつた和八幡宮共称せり別當ハ真言宗に

一七幡降山大宮寺と号く借中野の宝仙寺例祭ハ九月十九日とす

二十一日迄三日の間 神躰 應神 天皇又左右ハ二神あれとも往古の兵燹ト

罹りて舊記亡ししりて神名詳あらず疑わらるる 仁徳天皇と

高良臣あつた何とも靈妙奇異中々文彩を加へて大古質

朴の風ありて彫刻最巧あらずつゝあるあつた元祿の末より神厨子と釘

年間別當祐照法印一七日行法ありて後漢んてこれと開き神像を拜し天明

とありて近年建部氏昌盛りて人信心の人小施しあへんとも自神影茂因

画し相傳當社ハ其先多田満仲の勸請なりとす後源

頼義朝臣奥州征代出陣の時種々の靈瑞ありて神像と感得康平

六年凱陣の時より宮居と堂建源家守護の神とす故に

右大将頼朝郷又相州鶴岡等しく神殿僧坊と重修ありて信心

最厚昔ハ大社中然不足利將軍の世裁後此

上杉相模の北条と戦ふ頃上杉の勢兵此地也一放火を此の時神像

大樹の下道れあつた別當真順法印りて社領ハ賊のあらず神巫

社僧も四方へ分散しれハ神躰の終に叢祠不安なりハ天正の

項大石信濃守當社の古きを尋く神宮を建同十九年忝も

大神君此地ハ台駕をりれ源家累代守護の靈神なりを

ありりれ新ハ神領と附りとす

幡ヶ谷不動明王 幡ヶ谷村ハあり真言宗光明山莊嚴寺ハ安置を

本尊不動明王の像ハ智證大師の作なり毎年四月八日より同

十八日迄内拜せしむ相傳ハ往古智證大師江州三井寺を創建の

時彫刻の靈像なりとす天慶年間平将門東國ハ不在逆威を

震ハ帝と惱りたら平貞盛及ハ藤原秀郷等追討の宣言と

蒙リ東國ハ發向し時三井寺より此本を奉持し陣中ハ



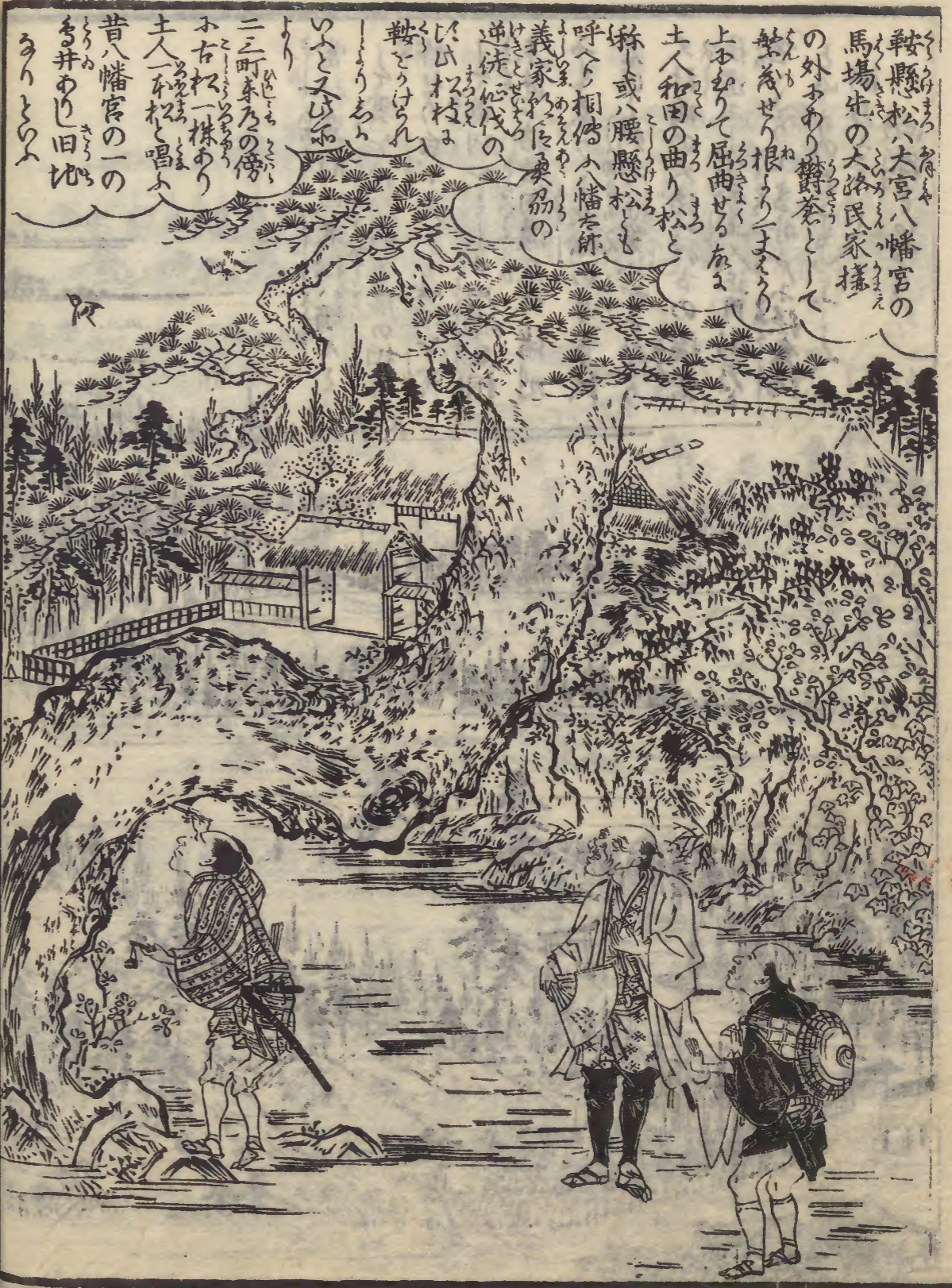
大宮八幡宮



当社廣前の老松ハ嬌々として雲と拂ひ數百歳の相と標せり白石先生も此松と賞して奥羽とてわ房総互相東海一路畿内濃尾の諸州あも未づる長松の多き紙見はと新安子管小記されり又社前の大路ハ往古の鎌倉街道おして今主人正用御殿と唱へり上る井戸ハ流金橋と名りのあもいふ人御殿なるり  
田村といふり







移し軍の勝利と祈誓せし同三年庚子果し得門を討  
 亡したりしより後此靈像を下野國小山郷へ遷しまるゝ然る  
 永祿の頃武田信玄甲州に安座したりと又北条氏政棄ひ取  
 相州築井との寺院に入りてを竟りて天正十八年四海安靖  
 なるま及んで當國多磨郡宅部の三光院に傳へりてを靈夢の  
 應あつと以て延享四年丁卯永く當寺に安置しまるとの事  
 井岡山慈宏寺 大宮前新田川越海道の右側より日蓮宗より  
 寛文年中の草創閑山八日賢上人と号し本号ふ三宝と安ん  
 當寺に安置の日蓮大士の像八日朗上人の作なり相傳へ弘長元年  
 辛酉五月十二日大士伊豆の伊東に滴せし朗師大士の別れを惜  
 まるゝせ靈木を得て大士の影像二軀を彫刻あり一尊八座像  
 法華寺にありし後堀の内妙法寺に安置す其二立像より當寺に安置す即  
 此靈像是なり旅行の艱相ありて世に光明木旅立の影影とも稱し  
 大士鎌倉へ立帰るゝの後點眼ありしと云ふ





林田  
上水  
流



井頭池  
弁財天社

山名



井頭辨財天宮

牟禮村あり

井頭の池

中島に宮居を

別當八天台宗

中大盛寺と号

相傳久

建久八年

鎌倉右府將

軍頼朝卿

創建あり

正慶年間

新田義貞

鎌倉と對陣

の時當社

本多天女の靈像

ハ傳教大師

作あり

寛永十三年

丙子

社遷建あり

井頭池

神田上水の源

あり長さ

八西北より

東南へ

曲り

三百歩

中ハ百歩

あり

池中ハ

清泉涌出

する所

酒さる

故小世

七井の池

とも

稱ハ

相傳久

慶長十一年

大神君

適そ

ふ至らせ

多ハ

池水清

冷や

味ハ

賞揚

多ハ

沙茶の水

汲せ

又寛永

六年

大將軍家

そ

渡御

あり

深ク

此池水

と愛

引せ

ら

く

旨

鉤命

あり

辛夷

と

井頭

と彫付

是より

後此池

の名

とす

年間

官府

より

井頭

の水道

を開

初

上水の

林あり

寛永八年

辛未

の夏

池水

あり

十五日

四月

十五日

沙揚枝

の柳

ハ

聖天堂

藤

今在所

三ツ

柳ハ

神木

と稱

す

ハ

昔省

耕の

沙殿

館あり

跡

あり

此池

ハ

清泉

や

炎天

と

水の

湧出

す

其地

最

閑

寂

池

新葉

黯

と

陰

と

水

浅

翠

嬌

青

碧

空

と

蔽

金井

橋

多

磨

川

の上

水

源

小

川

村

より

新

橋

何

も

江

戸

至

直

流

此

地

の

櫻

花

ハ

享

台

命

と

奉

和

州

吉

野

山

ハ

常

州

櫻

川

等

の

地

より

櫻

の

苗

と

す

と

す

と

す

と

と

す

と

す

と

す

と





小い金の井橋の春の景









殖らるるや、其數九一萬余株あり、今存するもの古木一園あり、項まの八は年ねんの官くわん府ふよりこれを殖うゑつるを多おほしと立た春はるより五十四五日目の頃ころ、あり、今ハ、善教大ニ減ク、九三百株あり、開ひら初はつ六十日目を満み開ひらの期きより七十日目の頃ころに至いたりて、落花らを最も年ねんの寒ふゆ暖あたたみより少すくしの遅おそ速はやありと、あり、大方おほ違ちがひを就あ中金井橋かねいばしの辺あたを佳境かきやうや、あり、爛らん熾し々々、あり、西岸さいがんの櫻うづ玉たま川の流ながれと夾はさんで一目千里ひとめせんり実じつは前後ぜんご尽つる際きわまで、あり、遊あそへハ、あり、白雲はくうんの中なかにあり、あり、蓮れん壺ぼの仙せん臺たいに至いたる、あり、遊あそへハ、あり、最奇さいき觀くわんなる、あり、近年きんねん都下みやこの騷さわ人ひと韻士いんし遠とほと厭いとむと、あり、来きて遊あそ賞しょうす

津つ久く戸こ明めい神しん社しゃ 築つ土と銀ぎん町ちやうあり 此地ハ牛込と小日向の界中ニ 別べつ當たうハ天台てんたい宗しゆ中ちゆう々々善ぜん龍りゆう山さん成じやう就じゆ院いんと号ごうに本ほん地ち佛ぶつハ聖せい觀くわん音いん傳でん教きやう大だい師し此こ作さくり相あひ傳でん入い天てん慶けい三さん年ねん庚かう子し相あひ馬ま將しやう門もん誅しゆせられ、あり、後のちを首くび級きゆうと當たう國こく江え戸こ平へい川せんの觀くわん音いん堂だうへ移うつり是これを齋いはいと津つ久く戸こ明めい神しんと稱なづす

文明十年戊戌太田道灌江戸城の鎮守と、宮社みやじや茂しげ造ぞう立たあり、あり、永亨えいけい記きは武州入間郡川越の城の乾ぬは氷川明神ひやうせんめいじんの社やしろあり、あり、準のりへ文明十年戊戌六月五日江戸城の乾ぬは津久戸明神つぐくめいじんを勸請くわんせいせと云いふ、あり、江戸秋子えどあきこは永亨記えいけいきを引ひき、あり、又また中古治乱記ちゆうちゆじらんき江戸城えどじやうを築つ一いつ条じやう下したは津久戸明神つぐくめいじんハ氷川ひやうせんと同どう幹かんの由よしなれハ素盞すさ鳴なり尊みことなりとあり、あり、

當たう社しゃハ往古むかうこ上平川かみへいせんの地ちあり、あり、天正七年己卯田安の地ち遷座せんざ又また元和二年丙辰今の地ちへ移うつり、あり、借かり築つて作つくる、あり、中古田安の地ち鎮座ちんざ座ざの頂たかハ田安明神でんあんめいじんと唱なへり、あり、祭禮さいれいハ九月十五日なり、あり、築つ土と八幡宮やっぺんみや 津久戸明神つぐくめいじんの宮居みやゐハ並なら入い地主ぢゆうしの神かみ中ちゆう々々別當べつたうハ天台てんたい





御宇全世無山寺之  
香殿之形其美其麗  
其殿之形其美其麗  
其殿之形其美其麗



築八宮同明社  
土幡神





膝喜洛陽十歲  
 光瑞烟祥氣入  
 望昌三條橋影  
 遊魚聚十字街  
 頭征馬忙岩岳  
 風來吹袂過敵  
 山雲度引紳長  
 金湯城上立錫  
 尾九陌不消逐  
 異方山崎垂加









くろふも姿乃消くせよれハ美佐吾う身まうりぬるをありて  
此わりの淵は身と投く空くかりたりなるをまきりり後  
此亦と逢坂といひりといふん 神楽坂の西の小坂と土俗幽冥坂といふり恐らくハ  
逢坂と混りたる状又地名とカ坂といひ女の名と云  
好事の人の付合せり知るへい

神楽坂 同所牛込の御門より外の坂とのへ坂の半腹右側小高

田穴八幡の旅所あり祭礼の時ハ神輿此所ハ渡りせらるる

其時神楽を奏するがよ此号ありといふ 或云津久土明神田安の地より  
今の処へ遷座の時此坂をて神楽

常小神楽の音此坂造きとゆるゆあるりといひい

若宮八幡宮 同所若宮坂の上若宮町あり 或若宮小路 別當八天台

宗普門院と号に相傳ふ文治五年の秋右大将頼朝卿奥州の

泰衡を征伐せんう為小發向をて時宿願ありと奥州平治の後

當社と營々鎌倉鶴ヶ岡の若宮八幡宮を移し其ら

いへるも 若宮ハ仁徳天皇の御後  
應神天皇に改め祭ると云 文明年間太田道灌江戸城鎮護の

為當社と再興一社壇と江戸城小相對せしむるとあり

牛頭山行元寺 千手院と号に同所神楽坂の上寺町道より右小

あり天台宗東叡山小属を本尊千手觀音大士の像ハ惠心僧

都の作あり 襟懸の本  
今ノ牛込門の辺小あり神楽坂中門の旧跡あり  
破壊を項のものといふ古き大般若經と秘藏せりと云背門内左右小南天樹多 慈覚大師を正山とせと云 土俗傳云當寺音  
大和守と傳

本尊像起云右大将頼朝卿石橋山合戦の後安房上總を歴く

下徳國より此國小打越の頃通夜をて夜の暮ハ頼朝

卿自ら此靈像を襟小かけとせまうり源家の武運を閑くと云

あふ後果一々天下を一統せられりより頼朝襟懸のる像と

稱へざるると云

牛込城址 同所藁店の上の方至旧地ありと云傳ふ天文の頃牛込宮内

少輔勝行此地小住りて城壘の跡ありと云



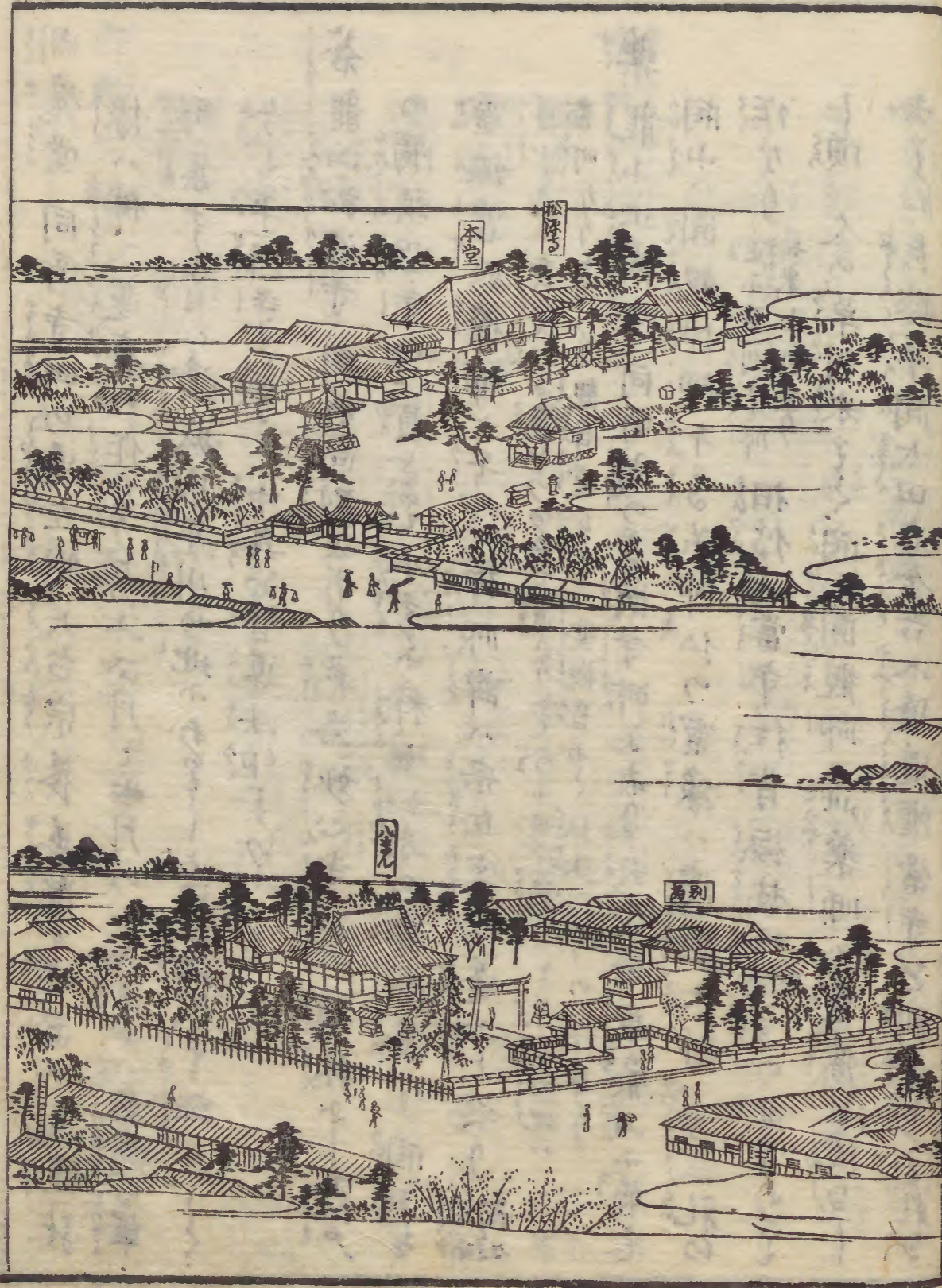
牛心  
神樂坂



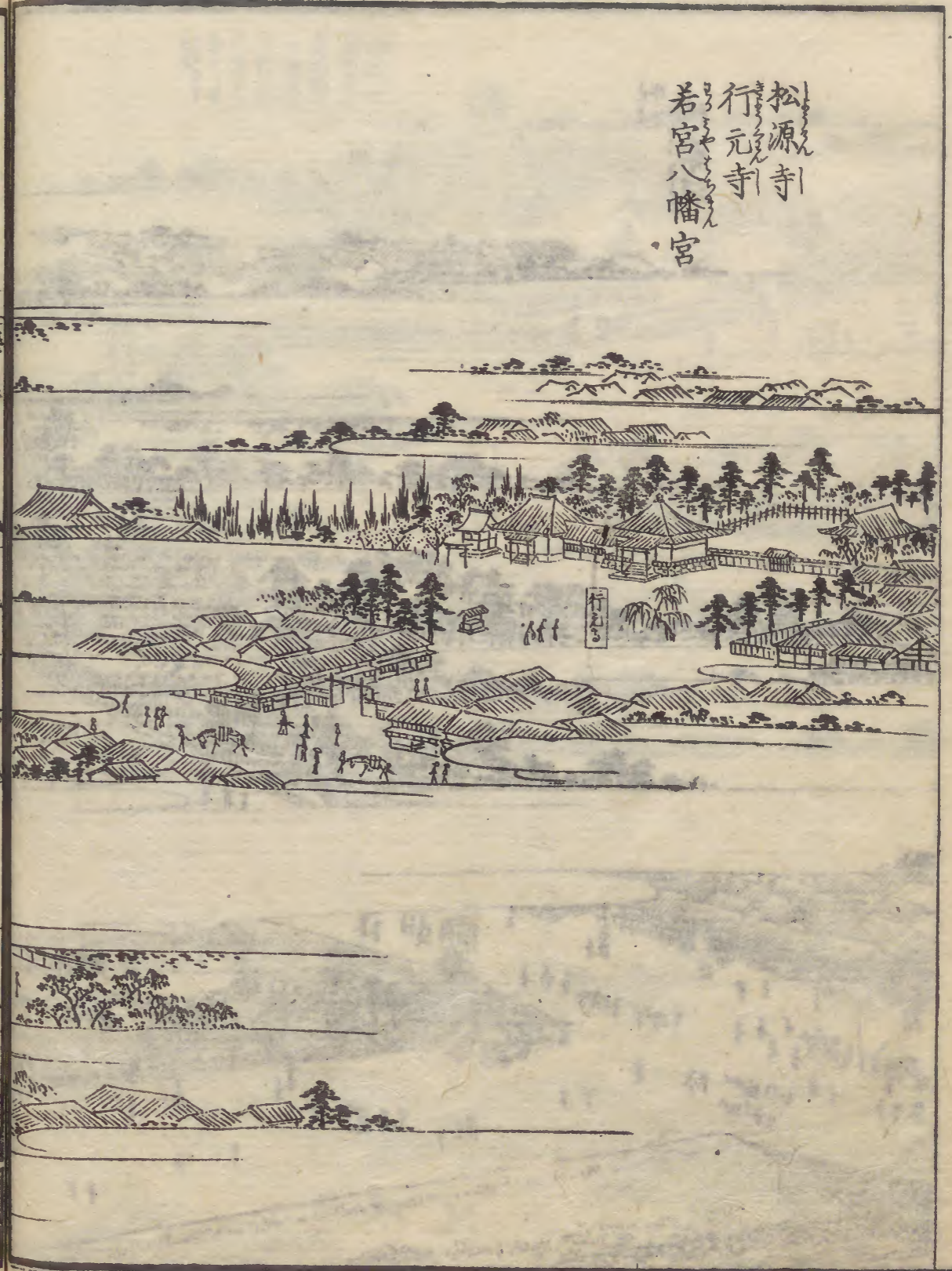
毎日の  
家の目  
来待野  
く桂茶  
の能商  
人市を  
あてて  
扱へ







松源寺  
行元寺  
若宮八幡宮





閻魔堂 同所寺町の通左側天台宗養善院に安置を閻王此  
像ハ佛工運慶の作なりとのみ正月と七月の十六日ハ泰詣の輩  
群集す昔ハ赤城内平川の地ハありとのみハ信へて証と  
今も平川寺と号く中興と智導法印とのみ

蒼龍山松源寺 同所向側より花洛妙心寺派の禪林にして江戸  
の觸頭四ヶ寺の一員とのみ本寺ハ釋迦如来の像を安す岡山と  
靈鑑普照禪師と号し禪師諱ハ宗立字を蓬山とのり 長谷川

蓬山とのみ昔境内ハ猿をつかき置りて今も猿寺と号く旧地ハ  
番町なりとのみ觀音堂ハ弘法大師の作なり

藥 龍山正藏院 同所南の方横寺町にあり天台宗東嶽山ハ屬を  
岡山ハ圓觀律師本寺茶師ハの靈像ハ傳教大師一カ三礼の  
作なり 世ハ草川茶師 相傳ハ當寺往昔梅林坂 赤城 の地ハあり  
一頃一人の草刈來りて岡山圓觀師ハ此藥師の靈像を授与し  
去りぬ長祿年間太田左金吾入道道灌當寺を創建してこれを

本寺とす其後上杉朝興も信殊ハ厚く牛王宝印等を寄附  
せしむたりとのみ今も是を傳へり當寺昔ハ平川梅林坂の辺ハ  
あり後年田安の地よりつれ元和年間今の所ハ地をかへせらる  
とのり

赤城明神社 同所北の裏通あり牛込の鎮守やと別當ハ天台宗  
東覺寺と号し祭神上野國赤城山と同神やと本地佛ハ將軍  
地藏と云往古大胡氏深く此御神を崇敬し始ハ領地ハ勸  
請し近戸明神と稱す子孫重泰當國ハ移りて牛込に住せり  
又大胡を改め牛込を氏と 其居住の地ハ牛込 祖先の志を継ぐ  
此御神とて勸請かりしとて祭礼ハ九月十九日なり 當社

勸請の地ハ目白の下瀬口領の田の中あり  
赤城の森と云  
赤城山 同く東の方中山家の藩邸の地ハ旧址なりとのみ或云萬昌院乃  
辺なりとのみ相傳ハ太田道灌の別館ありと舊跡なりとのみ寛永の頃





赤崎城明神社





大將軍家伊波鷹の時の伊備とて假小建置多し伊波の地なりとのへ

陰涼山濟松寺 同所榎町あり 京師妙心寺派の禪窟なり 昔ハ

寺より輪番 本も釋迦如来を安も 閑山ハ心印正傳禪師開基ハ素

心尼なり 此尼ハ牧野兵部少輔政玄の女也 春日局と共に

大將軍家眠近の侍女なり 當寺ハ伊波殿あり 芳心院法別當

を務む 此寺ハ芳心尼 伊波殿の前の池を鳳凰池と號く 靈龜水

芳心院の地はあり 寛永の頃ハ伊波茶の水ハ掬とてあり

閑山塔ハ養春院是と預る 僧坊六宇 徑堂鐘樓庫裡浴

室等巍々然とて 軒を連珠輪煥とて 三佛堂の額ハ天下蔭涼とて 隨自意院宮一品准后公啟法

豐後小侍大友義延舊館之地 同寺院を指く 吾旧跡とて相傳ふ 文祿二年 大友義延朝鮮征伐の役ハ補せしめて武備急あり

以て豊臣大岡罪に當國へ遷し 此地ハ藝居せしむ 此地即舊日

跡なりとて 南向茶話云 大友左兵衛督義統 文祿年間朝鮮征伐の役ハ忌り

義延此地ハ住む 義延ハ從四位小叙侍 從五位下 大友宗五郎

慶長五年閑原一戰の後 常州筑波郡小敷に居り 三十五石の地を賜ふ

早世も又江戸鹿子とて 草紙ハ義兼と 其後大橋立慶 此地ハ居住せし

記ハ望海無然とて 寛永十七年の事實を記せし 大友宗五郎

高田天満宮の祠あり 此地ハ天満宮の祠あり 記せり

大友松 同所天神町の東ハ積き 伊持筒組高野氏の地ハあり 云

昔大友義延ハ別荘の庭前の松あり 伊波後回祿ハ亡し 此地ハ

其地の主田跡を失むるを歎き 若木を栽られ 此地ハ 武臣

家の傳説ハ大友宗五郎義延武州へ 遷る頃 後ひ來り 家臣吉良傳左衛門 某

營作せし 教寄屋の前の松中 蔭涼山濟松寺の名ハ此松より 號けり あり

大友稻荷祠 同所ハあり 是も義延の勸請とて 伊波

一樹山宗柏寺 濟松寺向の横小路あり 日蓮宗京師頂妙寺ハ屬 せり 閑山ハ日意上人と号し 本も釋迦如来の像を傳教大師の







作なり相傳り延暦年間傳教大師桓武天皇の詔を奉り鎮  
護國家除災延命の爲ふ叡山みづの於お此靈像を彫造ありしと  
なり然しか元龜二年辛未しんみ倭田信長公しんちやう叡山を放火せし時とき仁  
僧坊悉く灰燼すあ時護持の人ありし此本このほん斗ととハ取とりて  
恙あやなるとと後水尾帝深く佛乘ぶつじやう小帰こきしを以もて是こを拜  
しひ又宸翰しんかんを賜たまひく釋迦牟尼佛しやくぢやうの号ごうを添そえり日意  
師し此本このほんを感得かんとくし當寺とうじを闢ひらく安置あんぢしまるとくと  
雲居山宗恭寺うんきやんそうきゆうじ 同所辨財天町このちを土俗曹洞派そうとうはの禪林ぜんりん  
しく駒込こまごの吉祥寺きやうじやうじ小属せうじゆくを本ほん寺じ釋迦しやくぢやう如來にょらい脇士わきしハ文殊もんじゆ普賢ふけんなりし  
閑山かんざんと看けん榮えい稟りやう閑かん和尚じやうしやうと号ごうく德門とくもんの額がく弟てい一いつ義ぎハ心越しんごつ禪師ぜんじの号  
中門ちゆうもんの額がく雲居山うんきやんハ岡良弼おからひの書佛殿しよぶつでんの額がく宗恭寺そうきゆうじの三字さんじハ崎  
陽道采やうだうさいの書禪堂しよぜんたうの額がくハ黃檗悦山わうはくえつざんとひ相傳あひつり當寺とうじ閑基かんきと  
牛込宮内少輔藤原勝行うしごみやうないしうほふとうげんしやうぎやうと稱なづす弘治元年後五位下ごごういげ住す法名ほうみやうと  
當寺とうじ小墳せうぼん 鎮守府將軍武藏守秀郷ちんしゆふしやうげんじやうじやうむさししゆけいの後胤ごいん大胡重俊おほこしぢゆうしゆん 上野國大胡  
墓かぶあり 或人あるひと云いふ家系けいけいハ大胡太郎成行おほこしだうぢやうぢやう十代じゅうだいの孫まご同彦次郎重治どうひこぢやうぢやうぢゆうぢ上州じやうしゅう大胡おほこしより武  
州ぶしゅう牛込うしごに後ごに住す 十代じゅうだいの孫まご重行ぢゆうぎやうの嫡男てつなんなり 重行ぢゆうぎやうハ宮内少輔みやうないしうほふと法名ハ  
と號ごうハ天文十二年卒てんぶんじふにねんす 北条氏康きたじやうぢやうぢやうの麾下か屬ぞく 武州牛込ぶしゅううしご及および今井いまい 赤坂あかざかの  
又また當寺とうじ小墳せうぼんあり 櫻田比々谷おうだひひや 或人あるひと云いふ其家系けいけい 其余下徳そのあの堀切ほりきり千葉等ちやへんらうの地ちを領りやうし牛  
込こ住す 永祿えいりよく北条家きたじやうけの分限ぶんげんハ江戸牛込えどうしご比ひ谷や本郷ほんかう葛西かさいの堀切等ほりきりらうの地ち大胡氏おほこしぢ  
込こ其その余あ高田たかた落合らくがひ関せき口くち日向ひやうが富塚とみづか小石川こいしがわの金杉かねすぎ市谷いちや田安でんあん櫻田おうだ 天文十三年甲辰てんぶんじふさんねんがつしん  
戰いくさ草くさ同どう金杉等かねすぎらうの地名ぢやうめいを所領しよりやうの中なハ比ひ谷やとり櫻田おうだ朝草あさくさ淺草あさくさとり 天文十三年甲辰てんぶんじふさんねんがつしん  
父ちち重行ぢゆうぎやうの菩提ぼだいを吊たりんる當寺とうじを創建くわんけんし寺田でんを寄附よせつけし父重行ぢゆうぎやう  
の法号ほうごうを採とり寺の号ごうハ呼よび同二十四年乙卯じふにねんいづみ從五位下じゆうごいげ小任せうにんす  
其時そのとき氏康ぢやうぢやうハ告つぐ大胡おほこしを改あらり其采邑さいいの名なハ牛込うしごとり氏ぢとも 天正てんしやう  
年ねん北条氏滅亡きたじやうぢやうめつじやうの後ご勝行しやうぎやうの子こ勝重しやうぢゆう天正十九年辛卯てんしやうじゅうくねんしんまう始はじめて 大神君おほがみきみハ勝重しやうぢゆうの孫まごなり  
勝重しやうぢゆうハ幕下まくしたり 或人あるひと云いふ勝行しやうぎやうの子こハ俊重しゆんぢゆうとりハ慶長十五年始けいぢやうぢゆうごねんしんて三代大將軍さんだいだいしやうげんとり 天正十八  
年ねん勝重しやうぢゆうハ當家とうけハ屬ぞくしまると  
大胡重行同勝行父子之墓おほこしぢゆうしやうぎやうふぢいしよのぼ 境内けいん中ちゆう塔たふの中なハあり一基きハ石碑いしひハ父子ふぢいの法号ほふごう  
とり 或人あるひと云いふ大高おほたか李り明みやうの書しよありと

當寺とうじ小墳せうぼん 鎮守府將軍武藏守秀郷ちんしゆふしやうげんじやうじやうむさししゆけいの後胤ごいん大胡重俊おほこしぢゆうしゆん 上野國大胡  
墓かぶあり 或人あるひと云いふ家系けいけいハ大胡太郎成行おほこしだうぢやうぢやう十代じゅうだいの孫まご同彦次郎重治どうひこぢやうぢやうぢゆうぢ上州じやうしゅう大胡おほこしより武  
州ぶしゅう牛込うしごに後ごに住す 十代じゅうだいの孫まご重行ぢゆうぎやうの嫡男てつなんなり 重行ぢゆうぎやうハ宮内少輔みやうないしうほふと法名ハ  
と號ごうハ天文十二年卒てんぶんじふにねんす 北条氏康きたじやうぢやうぢやうの麾下か屬ぞく 武州牛込ぶしゅううしご及および今井いまい 赤坂あかざかの  
又また當寺とうじ小墳せうぼんあり 櫻田比々谷おうだひひや 或人あるひと云いふ其家系けいけい 其余下徳そのあの堀切ほりきり千葉等ちやへんらうの地ちを領りやうし牛  
込こ住す 永祿えいりよく北条家きたじやうけの分限ぶんげんハ江戸牛込えどうしご比ひ谷や本郷ほんかう葛西かさいの堀切等ほりきりらうの地ち大胡氏おほこしぢ  
込こ其その余あ高田たかた落合らくがひ関せき口くち日向ひやうが富塚とみづか小石川こいしがわの金杉かねすぎ市谷いちや田安でんあん櫻田おうだ 天文十三年甲辰てんぶんじふさんねんがつしん  
戰いくさ草くさ同どう金杉等かねすぎらうの地名ぢやうめいを所領しよりやうの中なハ比ひ谷やとり櫻田おうだ朝草あさくさ淺草あさくさとり 天文十三年甲辰てんぶんじふさんねんがつしん  
父ちち重行ぢゆうぎやうの菩提ぼだいを吊たりんる當寺とうじを創建くわんけんし寺田でんを寄附よせつけし父重行ぢゆうぎやう  
の法号ほうごうを採とり寺の号ごうハ呼よび同二十四年乙卯じふにねんいづみ從五位下じゆうごいげ小任せうにんす  
其時そのとき氏康ぢやうぢやうハ告つぐ大胡おほこしを改あらり其采邑さいいの名なハ牛込うしごとり氏ぢとも 天正てんしやう  
年ねん北条氏滅亡きたじやうぢやうめつじやうの後ご勝行しやうぎやうの子こ勝重しやうぢゆう天正十九年辛卯てんしやうじゅうくねんしんまう始はじめて 大神君おほがみきみハ勝重しやうぢゆうの孫まごなり  
勝重しやうぢゆうハ幕下まくしたり 或人あるひと云いふ勝行しやうぎやうの子こハ俊重しゆんぢゆうとりハ慶長十五年始けいぢやうぢゆうごねんしんて三代大將軍さんだいだいしやうげんとり 天正十八  
年ねん勝重しやうぢゆうハ當家とうけハ屬ぞくしまると  
大胡重行同勝行父子之墓おほこしぢゆうしやうぎやうふぢいしよのぼ 境内けいん中ちゆう塔たふの中なハあり一基きハ石碑いしひハ父子ふぢいの法号ほふごう  
とり 或人あるひと云いふ大高おほたか李り明みやうの書しよありと



高田本松寺  
願満祖師堂



栄の梅  
洞山看采和尚

三明山千手院 同所七軒寺町あり真言宗洞山ハ舜倚法印と

号を本尊千手観音の像ハ伊長八寸九分脇士多門持國の二

天也赤梅檀中〜毘首羯磨天の作なりと之を相傳ふ往古

越後國安巨山小あり〜天正年間豊大阿秀吉公柴田勝家と

戦ふ及んで蒲生氏郷の臣殿池玄蕃といふ人是を感得を既

中て元和年間蒲生家敗壞の後殿池ハ下總國佐倉の城主

堀田家よ仕入故あり〜富永氏某傳來〜後當寺よ安置〜

〜りといふ

正定山幸國寺 同所原町小あり日蓮宗小湊の誕生寺小属を

洞山を日觀上人と号し當寺小安置の日蓮大士の像ハ世小布引の

御影と称せり傳云文永七年庚午宗祖大士鎌倉小在〜項房總

の國郡数月疫癘流行せり〜小於〜人民大士小救を求む乃大士

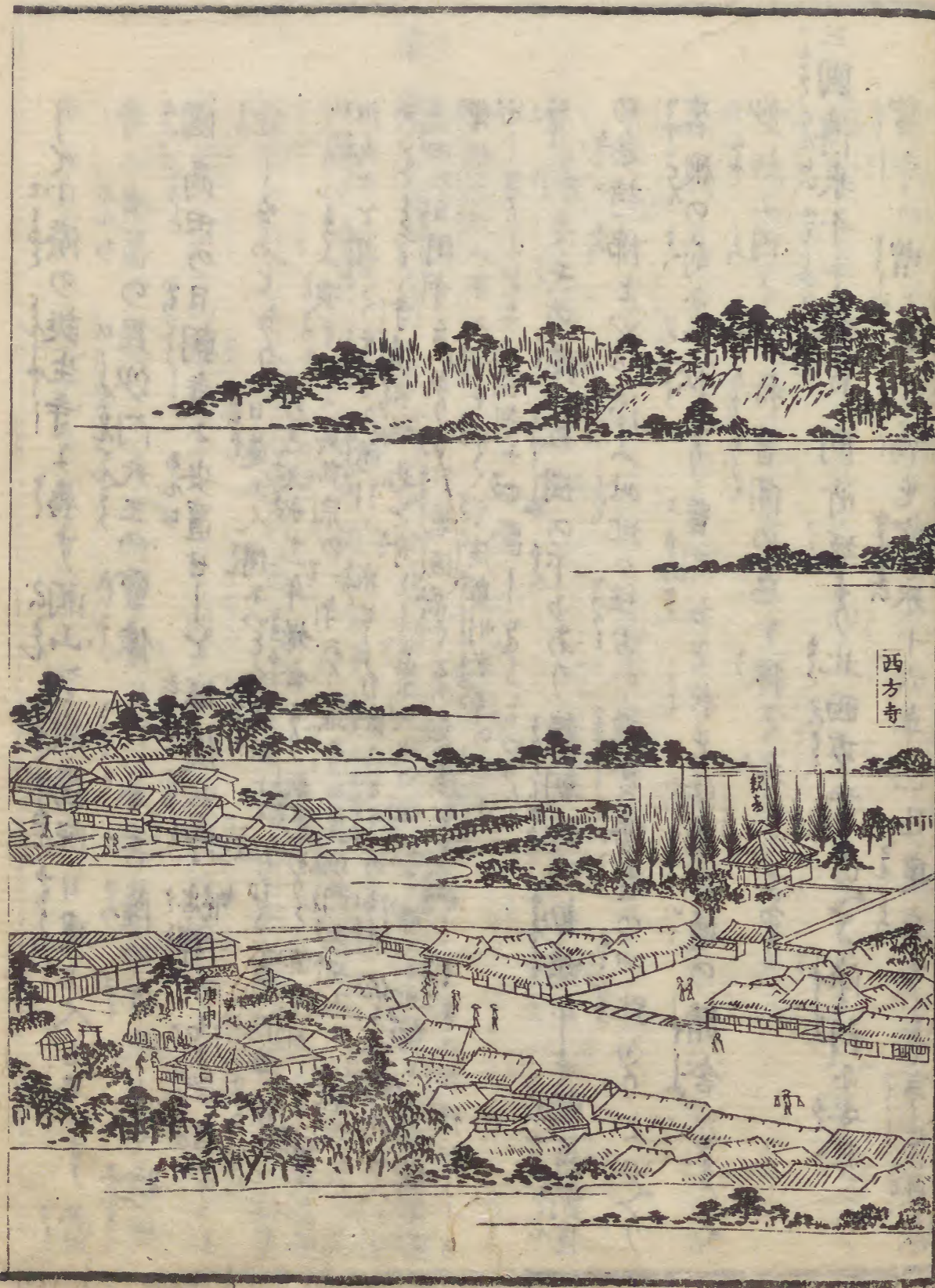


若菜島  
神明宮



佛工を造りて自の像を造りて白布に経題を書きて手  
 掛多し囁いて曰く則是日蓮なりと云く依て此靈像を其地  
 移す小疫疾の患へ頻小退きしを故小此靈像を小湊の誕生  
 寺に安置したり又宗門流布の爲寛永七年庚午二月  
 十六日當寺に移すまねりはとてり當寺に加藤肥後守清正  
 の閑基ゆして宗祖の靈像ハ寒暖に應し衣服を改むる  
 池上小同しきとのみ 阿部氏其調進すあり  
 神明宮 早稲田大田圃にあり祭神天照春日八幡三座あり同所  
 赤城明神の別當等覺寺より兼帯を祭礼ハ九月十六日あり鎮  
 座の年歴詳ありはといへし 天和二年同所榎町よりつとむる今大内番  
 組林氏其の宅地ハ重川地ありといふ  
 赤城明神舊地 同所田畔小川に傍てあり大胡氏初て赤城明神と  
 勸請せし地なり故小祭礼の日ハ神輿を此地に渡すまねり  
 木妙山感通寺 高田穴八幡の馬場下南の坂上より日蓮宗に





西方寺



誓願寺  
西方寺

誓願寺



一々小湊の誕生寺に属す閑山を寂陽院日建上人と号す當  
寺に安置の毘沙門天王の靈像ハ行基菩薩の作なり越後  
國高田の日朝寺に安置せしと越後必將解禪の淨母君より  
迂日蓮上人傳日蓮上人傳ふつと宗祖上人弘むるの法華經の功德を  
祖大士と導く寺僧吉祥是と奇と直此寺の毘沙門天王と現るる此寺の毘沙門天王と現るる  
高田の日朝寺にあり上杉謙信深くこの靈像を敬し家相傳せし  
謙信天正六年に卒せ依り後奥州米澤の城に  
遷しよりとまき當寺に安置せしとゆふり  
摩利支天の像ハ松樹の下にあり頼朝卿の勸請なり頼義朝臣  
の念持佛といひはる此地ハ往古の鎌倉海道の日跡ありとゆふり  
客殿の前ハ一松あり普聞松と稱し法花弘通の精舎なりと  
妙經に因り名稱普聞の意を採り名つとあり  
三國傳來千手觀音 同所坂より北西方寺とある淨刹に安置せり  
當寺ハ増上寺に属す寛永十六年己巳建立なり高野貞義

和尚閑山より相傳ふ往古弘法大師唐土青龍寺の惠果阿  
闍梨より授与せられ中印土の靈佛ありとゆふり大師帰朝の  
後高野山の塔に安置ありと彼山麓に住る流水といふ沙門  
感得し武州浅草に移しなり故あり閑山貞義和尚當  
寺に迂しせしとゆふり故に三國傳來の稱ありとゆふり  
自樂居士墓 境内卵塔の地あり備前國の産中より齡を保つ既百十  
四歳なり常小壯年の人の如く見ゆ文字を書きしを得たり  
一衆人のをいふあり百歳の頃より壽の一字を學ひぬく是を依り書て  
人小とへしとなり室曆三年癸酉十二月三日没す  
龜鶴山誓願寺 同北に隣る易行院と号し淨土宗中より靈巖寺  
小属を本する五智如来の像ハ各長閑山水食本蒼上人秋風誓願  
和尚の作なり常念佛の道場中より清淨無塵の佛域なり當  
寺昔ハ少の庵室中より前ハ松樹四株を植る方位を定め  
方松庵といひるを今四五十歩南の方道と隔て向ふの側ハ  
庚申堂あり是則昔の方松庵の地なり





高田八幡宮

世に穴八まん  
と

法輪

稲荷祠 境内あり 閑山誓閑和尚ハまつくく 仏像を作らざるを得ず 常ニ吹草と  
 吹草祭をなせしとあり 今も 垂枝櫻 本堂の前ニあり 菊岡 涼ういゆるあり 櫻  
 その余風を軒すのあり たるる小溝の流をせしとあり 豊島郡と荏原郡  
 との堺と當寺鐘の銘をせしとあり

金川 同所穴八幡の前を早稲田の方へ流す小川と云とあり 今古川と  
 水源八戸山 河庭中より發する石あり 文明年間太田道灌遊獵の  
 時急雨小逢しハ此地中々昔ハ川の幅も廣くありとあり 石頃ハ加  
 奈川又加能川とも稱するあり 或ハ蟹川  
 高田八幡宮 牛込の總鎮守や々々高田あり 世に穴八幡 此地と戸塚  
 と云別當ハ真言宗や々々光松山放生會寺と号ハ 旧名ハ威盛院中  
 なる祭礼ハ八月十五日や々放生會あり 之坊と唱へしと  
 旅所ハ牛込神乐坂の中腹より  
 社記云寛永十三年丙子 涉弓隊の長松平新五左衛門尉源直次ハ  
 與力の軍射術練習の爲此地ハ的山を築立らるハ幡宮ハ源家の  
 宗廟や々々弓箭の守護神と云と此地ハ勸請せんると





其二





謀る此山小素より古松二株あり  
枝上は遊少を以て靈瑞と  
假ふ八幡大神の小祠を營  
件の松樹を神木とす  
南向亭云く此地八田早稲田邑の地中島との此地  
青津六共衛とる富民あり往古北条家不仕へ  
所以を知者なり  
同十八年辛巳の夏中野宝仙寺秀雄法  
印の會下威盛院良昌とる沙門あり周防國の産中山口八  
幡の氏人なり  
幼くして毛利家の侍本氏某は獲本紙後十  
刊あり一紀の行法とけ二十一歳の時より諸國依此沙門を迎へ  
社僧とむ故同年の秋八月三日草庵を結んと山の腰と  
切開時小の靈窟を得りその窟中石上金銅の阿弥陀の  
靈像一軀たせる八幡宮の本地あり山の号に相  
應とて奇ありと又此日將軍家  
御令嗣嚴有公沙誕生あり八衆益靈威をある  
同年八月九日

社頭の鏡一町四方繩張地を開き本社の神木の松の本小近八重垣を結  
同十四日宮の式を執りす松平新五左馬尉等と引供一的山の辺に  
勤むと後元祿年間今の宮居と造營ありと結構備とり  
南向亭茶館小嚴有公殊小當社を序崇敬あり序宿願のり満多の後當社と  
營せ東門内藤豊前守普賢堂小松平左近將監手水垣八増山兵部少捕  
檢昌院殿再興と云又江府神社略記及ひ和漢三才因會等の書小元祿年中  
若宮八幡宮本社の前左あり  
東照大推現同所並せる毎年四月  
氷室明神祠本社相對す盛徳との二字と彫り額と掲ぐ祭神大己貴命  
三年正月二日金澤の住人渡辺氏是善靈像の應ありと此神を祭る直良此神小  
祈願平愈と同七年の頃始て鎮座せりと云  
光松別當寺と本社の間坂の支路は昔の松平延享年間小松平今  
と又寛永十三年始と當社八幡宮勸請の項此樹上山鳩來り遊ひと云  
放生池石階の下あり山の腰より清泉とり切り実小  
出現所坂の半腰絶壁小とり往古の靈窟の旧址なり近頃地小出現堂と  
影け九品佛の中下品上生の阿弥陀佛の像と安置せり堂宇ありと云





高田稲荷  
 昆沙門堂  
 富士山  
 神泉  
 守宮池  
 寶泉寺



能舞臺址 本校の左の方あり今礎を存するの寛延三年  
庚午三月觀世大夫一代能と興行せし跡ありとのふ

抑當社の別當寺を光松山と稱すも神木の奇特ふくまえてありと

神と君との道直中しく治る伊代の濁りあり石清水の清き誓ひ

寂もそとを思われる殊更元祿の頃伊再興ありしより和光の神

徳日く小願きく昭然たり

高田稻荷明神社 同所八幡宮より右の方道路を隔てあり戸塚村の

産神と稱す故小戸塚稻荷とも呼べり本地佛聖觀世音ハ南都徳一

大師の作り相傳ふ當社の権輿ハ最久遠なりし小文龜元年辛

酉上杉治部少輔入道朝良 南向亭 靈夢ハ依る宮居を再興し  
朝興と

戸塚村の地を社領小附せり 當社ハ古き棟札を蔵せり文云く天文十九  
年二月二十九日牛込主膳時國再興別當宝泉

坊秀強大工与左衛門同左衛門五郎とあり 按牛込主膳時國の弟の考す

上州大朝氏の後裔武州牛込に住し 天文二十四年氏と牛込改むるの考す

九年の願ハ牛込氏改めりし時より然れ此小時國ハ自別の人なり 按他日証正史一  
平後元祿十五年壬午四月靈告ありし覆の控より

靈泉涌出す眼疾を患ふる者此靈水を以て洗ふと奇

驗あり仍土俗當社とす水稻荷とも稱せり毎年二月初十日

奉射あり祭祀ハ九月九日サケ

神泉 社前覆の控よりありしを  
之より靈験ありとのり

毘沙門堂 同境内小高き丘の上あり本多毘沙門天王の靈像を

慈覺大師の作り武藏守藤原秀郷の念持佛ありと云り

相傳ふ慈覺大師江州唐崎の濱小至りむ川の苗を拾ひ得あり

内ハ長一寸八分の多門天の靈像あり大師隨喜しく自是を念

持佛とす仁壽年間旧里下野國小下り佐野の大慈寺小入りあり

長二尺五寸の多門天像を彫刻あり先の靈像を胎中ハ龜の

卵にせ大慈寺小安置ありしと天慶中武藏守秀郷平將門を征

伐の後此地に移ししあり 紫の一本と云る冊子ハ秀郷將門を退治し  
の時深く毘沙門天を念ししあり

毘沙門天兜の上小現しありと自ら拜殿小掲る所の多聞天の額ハ長崎

模し彫むとあり寺は不異なり







大司圖書  
香

高田  
天満宮

世辺  
花  
園  
後  
尾



文社  
印



